

## ネクイハムシ美囊郡吉川町に多産 (兵庫県甲虫相資料・179)

高橋 寿郎

ネクイハムシ *Donacia lenzi* Schönfeldt (和名は木元, 1984による) は Schönfeldt により Hiogo 産で記載された種である (Ent. Nachr. 14:33, 1888)。神戸に 1874-1880 年の間滞在した商人 Lenz, Tuiscon が神戸で多くの昆虫 (主として甲虫, 若干の半翅目) を採集しその標本をドイツに持って帰ったがこの種も Lenz の採集品で種名が Lenz に献名されている。Hiogo とあるが勿論現在の神戸のことである。

1873年に Baly, F.I.S. が *Donacia araria* Baly として "Nagasaki and Hiogo, Japan" を記録している (Trans. ent. Soc. Lond. Part.1, 1873:69) がこの種も *D. lenzi* に当る (Lewis, Entomolog. 26:153, 1893)。この Baly の記録では "This insect was found by Mr. Lewis on a small species of water lily" とある。

この様に神戸産で記載された種でありながらその後全く神戸からの記録の無い種であった。

兵庫県下からの記録は 1981 年野尻湖昆虫グループの方々の "日本産ネクイハムシ亜科に関する研究" (Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. №34:27-46) の中において 3ヶ所が記録され, 1985年に発表になった "アトラス日本のネクイムシ" の中で県下 5ヶ所が記録された (1981年の記録もふくまれる)。しかしながらこれ等の記録の中には神戸の産が全くふくまれていない。たまたま 1986年 5月 25日神戸生物クラブの採集会が谷上にて開催されその際叩き網で本種が 1♀採集出来た。そこで日を改めて 6月 1日再度調査に出掛け 2♀を採集した。場所は神戸市北区山田町金剛童子山殿ノ手池畔である。神戸市と云っても若干奥に入った地点であるが原産地近くに分布していることが確かめられた (余談ではあるが神戸市立森林植物園内にある長谷池, 学習の森の中の池, 洞川湖等 1986年 6月 14日調査して見たがその時点では見ることが出来なかった)。

さらにこの地からやゝ北方に当る美囊郡下には本種を多産するのでこちらも報告しておきたい。場所は中国自動車道をはさんで南側の吉川町市野瀬, 北側の吉川町奥山両地域の池 4ヶ所で本種を多数見つけ, また採集もしている。このあたり酒米の産地として良く知られた地域であるが溜池が多くそれらにはジュンサイ, ヒツジグサ, コウホネが見られるのである。それ等に本種が発生している。一応次のように採集している。吉川町市野瀬 (8♂, 10♀, 2-VIII-1985), 吉川町奥山 (14♂, 16♀, 5-VI-1986, 池は 3ヶ所)。その後 6月 10日再び同地を訪れ吉川町奥山の池 2ヶ所と今回は新に渡瀬にある吉川高等学校の南側道路ぞいにある池 2ヶ所でも多数見ることが出来た。無作為に採集しているがほとゞ♀の数は等しく採集出来ている (28♂ 29♀)。

勿論本種は日本全域、朝鮮半島、中国、台湾、フィリピンと分布は極めて広い種であり県下でも少し注意すればまだまだ広く多く産する種であろうと考えられる。

尚最後になって申し訳無いが美濃郡下での採集したものはその大部分が蜂谷幸雄氏の手を煩わしている。標本は全部筆者が保管しているが蜂谷氏の御好意に深謝させて頂く。 (AUG. 1986)

(付記)その後1986年9月11日三木市笹原の池で2♀を採集した。このあたりの池にもヒツジグサなどが多くあり、本種の食痕のようなものも多く見られた。恐らく広くこのあたりには分布していそうである。

## エンマムシモドキの記録 (兵庫県甲虫相資料・180)

高橋 寿郎

1986年8月31日神戸生物クラブ恒例の鑑定会々場(神戸大丸屋上)にて同クラブ顧問の東正雄先生から同定を求められた標本はエンマムシモドキ *Syntelia histeroides* Lewis であった。本種の県下での記録は鉢高原〔高橋, 1975〕と云うのがあるがそれ以外の記録は見当らず県下では可成り珍しい種の一つであると思われるので東先生のお赦しを得て此処に記録させて頂く。尚先生から採集時の状況も御教示頂いたので次に紹介しておく。

〃養父郡氷の山の高度800m内外の地点でツルウメモドキ *Celastrus flagellaris* Rupr. のやゝ大きな木の根もと近くの朽ちた樹皮を取りのぞいていたとき地面から20~30cm内外の高さで樹皮の裏面にひそんでいた〔越冬から出たのか?〕のを採集した。日時は1986年6月22日で雨後でかなり地面は湿気があった〃と。先生と御子息と一緒に先生の御専門の陸貝の調査・採集に行かれて採集されたもので(このエンマムシモドキは御子息の採集)先生は氷の山・鉢高原・横行溪谷は毎年の様に10数回調査に行っておられるとのことである。

この貴重な標本を検査する機会を与えて下さり、採集時の状況を御教示頂き記録の発表を赦された東先生に厚く御礼申しあげる。標本は東先生保管。 (SEP. 1986)